

※今大会でのパネルセッションの発表はありません。

口頭発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「海外の日本語学習者にとってのキャリア形成」に関連した発表です。

土曜の部〔13:00～14:20（各20分）〕

	第1会場	第2会場
	司会： 【①～③】横山紀子（元・昭和女子大学）	司会： 【④～⑥】西口光一（大阪大学）
13:00～13:20	① 日本に永住帰国したサハリン残留日本人2世のライフストーリー—CEFRにおける仲介の観点から— 佐藤正則（山野美容芸術短期大学） 三代純平（武蔵野美術大学）	④★ フランスの大学生は日本語の発音学習をどのように意味づけたのか 大戸雄太郎（早稲田大学大学院生）
13:30～13:50	② 日本語学習者の「学習の振り返り」に対する否定的な認識の背景と要因—中国・広東省のある高等教育機関での実践と質問紙およびインタビューによる調査から— 末松大貴（名古屋大学大学院生）	⑤★ 「使うあてのない日本語学習」は学習者に何をもたらすのか 山内薫（明治学院大学）
14:00～14:20	③ 論証に基づく妥当性検証の枠組みによるスピーキングテストの検証—意見述べを例として— ボイクマン総子（東京大学） 根本愛子（同） 松下達彦（国立国語研究所）	⑥★ 国内大学留学生のキャリア意識と行動—アンケート調査の統計分析から— 寅丸真澄（早稲田大学）、家根橋伸子（東亜大学） 佐藤正則（山野美容芸術短期大学）、 松本明香（東京立正短期大学）

口頭発表一質疑応答一

日曜午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

第 1 会場

司会： 【⑦～⑨】神村初美（ハノイ工業大学） 【⑩～⑫】有田佳代子（新潟大学）	
9:30 ~ 9:50	<p>⑦ 外国人介護士の語りにみられる介護施設内コミュニケーションの困難点</p> <p>國澤里美（群馬県立女子大学），和田礼子（鹿児島大学） 吉里さち子（熊本大学），嵐洋子（杏林大学）</p>
10:00 ~ 10:20	<p>⑧ 外国人介護職員の日本語理解についての評価とその要因—日本人職員へのアンケート調査の結果から—</p> <p>吉里さち子（熊本大学），和田礼子（鹿児島大学） 國澤里美（群馬県立女子大学）</p>
10:30 ~ 10:50	<p>⑨ 学術論文における「～によると」「～によれば」の使用環境</p> <p>向井留実子（愛媛大学） 中村かおり（拓殖大学） 近藤裕子（山梨学院大学）</p>
11:00 ~ 11:20	<p>⑩ 技能実習生を教える日本語教師の教師観形成と変容—TEA（複線径路等至性アプローチ）を用いて—</p> <p>藤田周三（一橋大学大学院生）</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑪ 留学経験を持つ中国人日本語教師キャリア形成プロセスと影響要因—複線径路・等至性アプローチによる可視化を通して—</p> <p>雍婧（一橋大学大学院修了生）</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑫ 実習生が抱く「職業としての日本語教師」への不安要素—アンケート調査の結果から—</p> <p>秋田美帆（関西学院大学） 牛窪隆太（東洋大学） 徳田淳子（東京中央日本語学院）</p>

第 2 会場

司会： 【⑬～⑮】中俣尚己（京都教育大学） 【⑯～⑱】森篤嗣（京都外国語大学）	
	<p>⑬ 多聴多観におけるゲーム活用の可能性—学習者の語りから—</p> <p>横山りえこ（早稲田大学大学院生）</p>
	<p>⑭ ベトナム人日本語学習者の長音の産出面における困難点—知覚面との違いに着目して—</p> <p>田中真由美（日本福祉大学）</p>
	<p>⑮ 学習者の「誤用」から見える日本語の特徴に関する一考察—存在を表す「てある（ている）」を例に—</p> <p>庵功雄（一橋大学）</p>
	<p>⑯ 日常談話における「ちょっと」の機能</p> <p>西村史子（ワイカト大学） 鹿嶋恵（熊本大学）</p>
	<p>⑰ 初級後半における文作成活動を取り入れた語彙学習の効果と改善点に関する考察</p> <p>アドゥアヨム・アヘゴ希佳子（宝塚大学） 斉藤知花（東京国際大学），大住あかり（同） 波多野博頭（筑波大学）</p>
	<p>⑱ 日本語語彙問題の選択肢自動生成プログラムの開発と検証</p> <p>梁震（京都大学大学院生）</p>

口頭発表—質疑応答—

日曜午後の部 [13:40 ~ 15:00 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：
【⑱～㉑】橋本ゆかり（横浜国立大学）

13:40 ~ 14:00

⑱
タイ中等教育機関における日本語学習者の学習意欲の変動と影響要因—日本語専攻の高校生に対する質問紙調査から—

大竹春菜（筑波大学大学院生）

14:10 ~ 14:30

⑳
交流協定による短期留学生の日本語科目選択理由の 4 類型

根本愛子（東京大学）
ボイクマン総子（同）
松下達彦（国立国語研究所）

14:40 ~ 15:00

㉑
オンライン授業における自律学習型クラスの可能性

白頭宏美（慶應義塾大学）

第 2 会場

司会：
【㉒～㉔】義永美央子（大阪大学）

㉒

日本語教育における翻訳の再定義に向けて—日本語教師向けアンケート調査の結果から—

行木瑛子（沖縄大学）
土居菜津子（国際教養大学大学院生）

㉓

日本語学校の新人研修担当教師の葛藤—養成講座出身者に対する研修を行った教師へのインタビューの分析—

水野瑛子（名古屋大学大学院生）

㉔

フィリピンルーツの子どもをつなぐ実践共同体の創出—タガログ語の使えるオンラインの「へや」—

大塚弓子（南山大学大学院生）

ポスター発表—質疑応答—

第1会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40 分)]

9:20 ~ 10:00

①

近代日本語教科書にはどのようなことばがとりあげられていたのか—『近代日本語教科書語彙索引』の製作過程および日本語教育史資料・日本語史資料の共有のために—

伊藤孝行 (北海道大学)

10:10 ~ 10:50

②

ローカル・ガバナンス構造から見た散住地域外国人住民のライフキャリア形成と日本語教育—X市におけるフィールド調査から—

家根橋伸子 (東亜大学)

山本晋也 (周南公立大学)

11:00 ~ 11:40

③

日本語音声教育の視点から見た研究動向—「日本語教育」と「音声研究」の比較—

高橋恵利子 (防衛大学校)

大久保雅子 (東京大学)

木下直子 (早稲田大学)

11:50 ~ 12:30

④

依頼場面における中国人・韓国人日本語学習者の配慮の表し方—I-JASのロールプレイに見られる「配慮表現」に着目して—

須賀和香子 (国立国語研究所)

細井陽子 (山野日本語学校)

第2会場

9:20 ~ 10:00

⑤
オンラインで学ぶ海外日本語学習者の特性を探る
—「JFにほんごeラーニング みなと」登録者を対象に—

中尾有岐 (国際交流基金)
三宅直子 (同)

10:10 ~ 10:50

⑥
教師とのインターアクション時に起きる学習者間の母語による「自律的な自発的発話」—社会文化理論から見た支援の諸相—

加藤伸彦 (東海大学大学院生)

11:00 ~ 11:40

⑦
短期ジャパスタディープログラムの意義と課題
—オンライン型と渡日型の比較から—

高橋桂子 (武蔵野大学), 難波房枝 (同)
小倉文根 (同), 矢野和歌子 (同)
河野多佳子 (アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター)
岡田千帆 (テンプル大学日本校)

11:50 ~ 12:30

⑧
私たちはどのように世界を見ているのか—ジャーナル・レビューからみる日本語教育方法論の行方—

八木真奈美 (駿河台大学)

第3会場

⑨
看護教員と看護留学生が日本語教員に求めることとは—看護学部でのインタビュー調査から—

山元一晃 (金城学院大学)
加藤林太郎 (国際医療福祉大学)

⑩
フィリピン人技能実習生の日本語学習意欲に関する実態調査—渡日後の日本語使用機会と学習を求める場面からの分析—

前田由樹 (エリザベト音楽大学)
中原郷子 (長崎外国語大学)

⑪
日本語教育機関における業務可視化のための管理運営業務ポイント化ツール開発の試み

中川健司 (横浜国立大学)
平山允子 (日本学生支援機構)

⑫
外国人介護従事者は国家試験で何に躓くのか—介護の専門知識の定着と問題形式—

丸山真貴子 (明海大学)
三橋麻子 (大原学園)

ポスター発表—質疑応答—

第1会場

午後の部〔13:40～16:00（各40分）〕

13:40～14:20

⑬

地域日本語教室における「Can-do」活用に関する一考察—岐阜県坂祝町の事例を通して—

新井克之（朝日大学）
藤田裕一郎（同）
秋松侑希（ECC 日本語学院名古屋校）

14:30～15:10

⑭

高等学校における外国人生徒等への日本語教育の現状と課題—質問紙調査の結果から—

齋藤ひろみ（東京学芸大学）
武内博子（同）
南浦涼介（同）

15:20～16:00

⑮

日本語の「～てくる／～ていく」と中国語の“～来／～去”に見る日中言語話者の事態把握の傾向

管晶（お茶の水女子大学大学院生）

★印は、今大会のテーマ「海外の日本語学習者にとってのキャリア形成」に関連した発表です。

第2会場

13:40 ~ 14:20 ⑯
渡日待つ大学院留学生に対する日本語教育の
試み—医療系留学生に「いろいろ」を活用した実践—

伊藤美保 (藤田医科大学)

14:30 ~ 15:10 ⑰
日本語教材作成における学びの分析—入門期の学
生の場合—

稲葉みどり (愛知教育大学名誉教授)

15:20 ~ 16:00 ⑱
論文読解・作成支援のための「~となっている・
なっていた」の「文型」提示の提案—社会科学系
の論文中間章における出現頻度と意味・談話機能の分
析をもとに—

新實葉子 (立命館大学), 中嶋容子 (同)
松本理美 (大阪樟蔭女子大学), 大島弥生 (立命館大学)

第3会場

19★
就労者に対する日本語教育 (SJ) 指導者育成研
修モデルの開発—モニター研修の検証を踏まえて—

品田潤子 (BPC 研修サービス), 倉本文子 (KAI 日本語スクール)
近藤彩 (昭和女子大学), 金孝卿 (麗澤大学)
住吉尚子 (ARC 東京日本語学校),
多田苗美 (神田外語キャリアカレッジ)
小笠恵美子 (昭和音楽大学)

20★
「特定技能介護士」現地学習開始から日本就労
までの実践報告—カンボジアと日本の連携に焦点を
当てて—

上田潤子 (早稲田大学)
中野玲子 (日本語みらいラボ)
滝島由紀 (フリーランス)